

工事施工計画報告書・工事施工結果報告書の作成について

◆対象建築物

- 確認を受けた木造以外の建築物（木造で階数が2～3の混構造を除く全ての用途とする）で、階数が3以上または延べ面積が100㎡を超えるものに係る工事監理者及び工事施工者は、主要構造部に係る工事に着手する前に工事施工計画報告書、主要構造部に係る工事が完了した後速やかに工事施工結果報告書を機構に提出して下さい。
(2014年4月より、京都市内の物件については提出不要になりました。)
- 工事施工計画書・結果報告書には、下記に示す工事写真・試験成績書等（コピーでも可）を添えて提出して下さい。
- 計画変更を行っている場合は、提出時点で最も新しい番号を記入して下さい。
- 対象となる建築物が2棟以上ある場合は棟毎に報告書を作成し、提出して下さい。
- X Y 方向、高さ方向あるいは平面的に構造が異なる併用構造や鉄筋コンクリート造で大屋根が鉄骨造のものなどは、鉄骨鉄筋コンクリート造用の報告書で報告して下さい。なお、地階が鉄筋コンクリート造、地上が鉄骨造のものは鉄骨造用の報告書で報告して下さい。

◆地盤関係書類

・・・・・・・・・・機構にて保管します（返却いたしません）。

- 確認時に地盤調査を近隣データなど参考データによって検討していた場合は、現地での調査資料に基づき支持力算定を行い、計算結果及び調査結果を提出して下さい。
- 地盤改良時の施工資料（種類、深さがわかる写真、試験結果等）を提出して下さい。
- 杭芯ずれのある場合は計測結果及び変更届を提出して下さい。

◆工事写真

・・・・・・・・・・内容を確認後、返却いたします。

| 構造 | 工種 | 撮影時期 | 撮影箇所 |
|---------|----------|-------|----------------------|
| S・RC | 杭打工事 | 杭打完了時 | 全景及び種類、長さの確認 |
| S RC | 基礎工事 | 配筋完了時 | 基礎・基礎梁及び全景 |
| RC・S RC | コンクリート工事 | 配筋完了時 | 柱・梁・床・壁・階段及び全景 |
| S・S RC | 鉄骨工事 | 鉄骨加工時 | 柱と梁の仕口の開先状況 |
| | | 建方完了時 | 柱脚・柱梁溶接部・継手・ブレース及び全景 |

◆試験成績書について

・・・・・・・・・・内容を確認後、返却いたします。

| 構造 | 試験名 | 該当材料 | 試験項目 | 試験方法 | 試験実施者 |
|--------------|----------|-------------|------------------------|--|-----------------------------|
| S・RC S RC | コンクリート試験 | コンクリート | 圧縮強度28日 | JASS5T-603 (⇒構造体CONの強度推定の為の圧縮強度試験) | 公的試験所 ※1 |
| | | フレッシュコンクリート | 塩化物量 | JASS5T-502 (⇒フレッシュCON中の塩化物量の簡易試験方法) | 公的試験所 ※1 または 工事施工者 ※2 |
| | 骨材試験 | 砂利・砂・碎石・砕砂 | アルカリ骨材反応 ※3 | 化学法・モルタルバー法 | 公的試験所 ※1 |
| | 棒鋼継手試験 | 棒鋼ガス圧接部 | 引張強さ | JIS-Z-3120 (⇒外観試験と引張試験) | 公的試験所 ※1 |
| 超音波探傷試験 | | | 日本圧接協会規格NAKS-0001-1983 | 工事施工者 ※4 | |
| S | 鉄骨溶接部試験 | 鉄骨溶接部 | 超音波探傷試験 | 日本建築学会 「鋼構造建築溶接部の超音波探傷基準・同解説書」 | 工事施工者 ※5 |

- ※1 公的試験所とは日本建築総合試験所その他の公的機関又はこれに準ずる機関をいいます。
- ※2 工事施工者については細骨材に海砂以外の山砂等を使用する場合で、その塩分量が0.04%以下の場合、レディーミストコンクリート製造会社（JIS認定工場に限る）に替えることができます。
- ※3 アルカリ骨材反応試験については骨材業者が公的試験において1年以内に受検したものがが必要です。
- ※4 超音波探傷検査（棒鋼ガス圧接部）については日本圧接協会「鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技量者技量資格検定規定」による有資格者が行わなければなりません。
- ※5 超音波探傷検査（鉄骨溶接部）については日本非破壊検査協会「非破壊検査技術者技量認定規定」による有資格者が行わなければなりません。